繊維学会の問題点と将来

宮田 清 蔵

学会長として今月で1年2ヶ月が過ぎました。瓜生会長時代に文部省の指導により定款が改正され、会長や理事の任期が2年となりました。私は6月の総会および理事会で再任されましたので例外的に3年間会長を務めることになります。ここでこの1年を振り返り、今後なすべきことを述べたいと思います。

昨年は元会長の宮本委員長のもとで2件の国際会議を開催いたしました。1件は、京都におけるアジア繊維会議で、400名を超える参加者のうち50%以上が海外からの研究者でした。引き続いて、上田で先端繊維の国際会議が開催されました。京都から引き続きの参加者と欧米からの参加者が加わり、機能性繊維、高分子の研究発表が活発に行われました。この両会議でいえることは繊維科学技術に対して、各国の研究者が日本の役割に大変期待していることです。このことは、他の学会が主催する国際学会に海外からの研究者の割合が50%に遠くおよばないことから明らかです。

また第2次繊維戦略機構を梶原理事を中心として立ち上げ、先端繊維技術研究センター構想をまとめています。国際的技術者養成に関しては、竹西理事が担当しています。さらに今まで東京を中心として年会を開催してきましたが、今年は梶副会長を委員長として京大化学研究所で行いました。従来より活発に研究討論が行われたこと、懇親会に180名もの参加があったことなどが参加された方々に強く印象が残ったと思います。来年は、稲垣理事を委員長として浜松で開催されますので皆様ぜひ研究発表をお願い致します。

上記しましたように学会としては応分の役割を果たし

てきたと思っております。しかしわずかながらではありますが会員数が減少しておりますし、また高齢化しております。現在繊維産業が厳しい時を迎えているせいか、夏季セミナー、各種講習会などの参加者が減少しています。担当の委員長他の先生方には頑張っていたいておりますが、年度初期に予想したより黒字幅が小さくなり、昨年度は、赤字になってしまいました。これに対しては運用財産を取り崩して解決しました。また従来、会誌発行に際して科学研究費補助金を受けておりましたが、本会誌は全文英語でないで、来年度からは援助が受けられなくなってしまいます。このような状況では単に経費を削減するだけでは、健全な学会運営が極めて厳しくなります。この問題を解決するためには抜本的しかも長期的対策が必要となります。

まずは、学会が今まで以上に魅力的になることが必要です。第1は研究発表の場としての年次大会および秋季研究発表会をできるだけ口頭発表するようにし、討論を活発化させます。第2は繊維と工業をA4版化し、活字を大きくして読み易くします。これに関して高岸編集委員長が尽力しており印刷費を低コスト化するばかりでなく、1月号から装いを新たにします。第3は、柿本報文委員長の発案ですでに実施しておりますが、報文誌をカメラレディーにして出版までの期日を短くしています。第4は、繊維戦略機構で検討中の課題をより現実的に、深化します。第5は、通産省で検討中の「ナノテクノロジー」のテーマの中に高強度および環境浄化繊維のプロジェクトを産学官が共同して推進します。第6は、学会の国際化です。今年も桐生、福井で国際会議を主催・共催して

Current and Future Status of the Society of Fiber Science and Technology, Japan

著者紹介 SEIZO MIYATA

Graduate School of Bio-Applications and Systems Engineering, Tokyo University of Agriculture and Technology

東京農工大学大学院生物システム応用科学研究所 教授・研究科長 工学博士、平成12年度繊維学会会長

著者は、繊維・高分子の光・電子物性を専門とされ、昭和60年高分子学会賞を受賞されている。著書には、「高分子材料の化学」(共著、丸善、1997年)、「Organic Electroluminescent Materials and Devices」(共著、Gordon and Breach Science Publishers、1997年)など他多数ある。趣味は、ゴルフとのこと。

本稿では、繊維学会の問題点と将来について、その展望を述べていただいた。

研究者および情報の交流を行います。アジア繊維学会立ち上げすべく梶原理事が科学研究費の補助金を受けています。第6は、学会が産学の掛け橋になるべく各大学の研究内容を学会誌で紹介します。

上記のような活動を通して、会員の皆様のニーズに応

えるとともに、新会員が増えるように努力したいと考えています。どうぞ今後ともご支援いただきますようお願い申し上げます。また忌憚のないご意見をお寄せ頂きたく重ねてお願い申し上げます。

第117回 Chemical Abstracts利用法講習会

主 催：化学情報協会、協賛：(株)繊維学会他

日 時：10月5日(木) 10～16時

会 場：中居ビル5F(東京都文京区本駒込6-25-4)

内 容：1. Chemical Abstractsの構成 3. 冊子体Chemical Abstractsの調査方法
2. 冊子体各索引の特徴とその使い方 4. CA on CD(CD-ROM版CA)の概要と使い方

参加費：一般 12,000円、大学職員・学生 6,000円、大学教官無料、化学情報協会維持・賛助会員 9,000円、
いずれもテキスト代込・消費税別

参加申込締切：定員になり次第締切

申込先：〒113-0021 文京区本駒込6-25-4 中居ビル (株)化学情報協会 講習会係 TEL：03-5978-3621

第13回 公開技術講演会

日本技術士センター(JTCC)技術情報委員会

と き：平成12年10月5日(木) 13：30～16：35

ところ：大阪科学技術センター 4階 第405号室(地下鉄四つ橋線本町駅or肥後橋駅下車 靱公園北側)

「挨拶と講師紹介」 13：30～13：35

テーマ：紳士アパレルから染色加工メーカーへの提案 13：35～14：50

(株)フレームアパレル総合試験所 次長 相馬成男氏

テーマ：下着の一般知識と品質管理について

(株)ワコール 商品試験室部長 上田良行氏

参加料：正・準・会友・日本技術士会近畿支部会員1,000円 TES会・その他関連学会会員3,000円 非会員5,000円

講演内容の詳細及び申込については下記にお問い合わせ下さい。

申込先：JTCC事務所 〒564-0062 吹田市垂水町3丁目7-18(P&Mビル5F) TEL：06-6339-1237, FAX：06-6339-0337

第25回複合材料シンポジウム

主 催：日本複合材料学会

共 催：日本材料学会北海道支部

協 賛：(株)繊維学会他

会 期：2000年10月5日(木)、6日(金)

会 場：北海道工業大学 〒006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目 TEL：011-681-2161

一般講演テーマ：1. 基材 2. 力学特性 3. 応力解析 4. 物性および機能 5. 環境特性
6. 試験法および評価法 7. 加工法および成形法 8. 最適構造設計 9. コストパフォーマンス
10. スマートコンポジット 11. その他

参加費：日本複合材料学会会員6,000円 共催団体会員6,000円 協賛団体会員8,000円 学生3,000円
非会員10,000円 懇親会会費5,000円

プログラムの詳細、参加申込については下記にお問い合わせ下さい。

〒006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目 北海道工業大学 機械工学科 成田 吉弘宛

TEL：011-681-2161 内線244(成田)、246(太田)、FAX：011-681-3622, E-mail：narita@hit.ac.jp.